

令和5年度沖縄県災害派遣精神医療チーム運営委員会 議事概要

1 日時 令和6年1月31日(水) 14:00~15:30

2 場所 オンライン開催

3 出席者

(1) 委員 (11名)

委員長：宮川 治 (県立総合精神保健福祉センター 所長) ※委員の互選により選出

委員：座間味 優 (琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座 助教) ※代理出席

委員：平安 明 (沖縄県精神科病院協会 理事)

委員：上田 幸彦 (一般社団法人沖縄県公認心理師協会 会長)

委員：西銘 隆 (一般社団法人沖縄県精神保健福祉士協会 会長)

委員：喜納 徳男 (一般社団法人日本精神科看護協会沖縄支部 支部長)

委員：福治 康秀 (国立病院機構琉球病院 院長)

委員：長友 亮 (沖縄県立精和病院 精神保健福祉士) ※代理出席

委員：奥浜 伸一 (DPAT 事務局 DPAT インストラクター)

委員：国吉 秀樹 (沖縄県保健所長会 会長)

委員：新里 逸子 (沖縄県保健医療部地域保健課 課長)

(2) 事務局 (4名)

地域保健課精神保健班：班長 (仲里)、担当主査 (山内)

県立総合精神保健福祉センター相談指導班：班長 (赤嶺)、担当主任 (饒平名)

4 議事内容

(1) 沖縄県災害派遣精神医療チーム派遣に関する協定書の一部改正について 資料 2

○事務局 (山内)：資料のとおり説明

→委員から質疑、意見等なく原案のとおり了承

(2) 沖縄県災害派遣精神医療チーム設置要綱の一部改正について 資料 3

○事務局 (山内)：資料のとおり説明

→委員から質疑、意見等なく原案のとおり了承

(3) 沖縄県災害派遣精神医療チーム運営委員会設置要領の一部改正について 資料 4

○事務局 (饒平名)：資料のとおり説明

→委員から質疑、意見等なく原案のとおり了承

(4)令和6年度沖縄県 DPAT 活動マニュアル改訂に向けた検討委員会の設置と委員人選

について 資料5

○事務局（饒平名）：資料のとおり説明

○喜納委員

運営委員会設置要領の中のマニュアル検討委員会の構成員に医師も入っているが、資料5のR3.3月改正版の構成員に医師がない。構成員の中に医師も含んだ方が良いと思う。

○委員長(宮川所長)

資料の構成員に記載されていないが、前回の改訂時は私も参加していたため、今回も医師を入れるようにしたい。喜納委員のご意見も考慮に入れ、人選に関しては事務局の方で検討していく。

(5)今年度の DPAT 活動について 資料6

○事務局（山内）：資料のとおり説明

○上田委員

これからの支援の予定はどうなっているか。

○福治委員

全国からの派遣は2/12で終了し、石川県のローカル DPAT に移行していく。研修を通して、ローカル DPAT の育成をしており、徐々に引き継いでいく予定。

○委員長(宮川所長)

沖縄県からの派遣は、琉球病院で最後になると思う。

○上田委員

DPAT 活動のことだけでなく、石川県から本県へ避難された方の支援等もあるか聞きたい。

○新里課長

被災者の受け入れの支援については、沖縄県庁内に対策チームを立ち上げ、専属の

職員が配置されている。被災地から沖縄県に避難してくる方の住宅の確保や、旅費の支援、相談対応等の取り組みをまとめ、県の HP にも掲載している。総合精神保健福祉センターと各保健所にて相談が受けられる旨も周知されている。現時点で相談があるかどうか確認はできていないが、本県へ避難している方もいらっしゃるようなので、今後必要性は出てくると思う。

○委員長(宮川所長)

当センターでも被災者からの相談はきていないが、今後相談したい方がいれば連携しながら対応していきたい。

○上田委員

東北で被災された方を支援してきた「じゃんがら会」が、今回も沖縄県に避難された方の支援をしていきたいと発信していると聞いたが、どこが支援体制を作っているのかと思い質問した。

○委員長(宮川所長)

現在は心理的な面のニーズは入ってきていないようだが、必要性があれば情報共有し、じゃんがら会のような支援を行う機関とも連携していきたい。その時はよろしくお願いします。

○平安委員

台風6号でのDPAT活動について確認したい。EMISにて要支援の医療機関もあり、台風時でも搬送ミッションが生じることが分かった。そのことを踏まえ、県においても情報収集の流れ等、検証する必要があるのでは。台風6号に関しては医療政策課も情報収集しており、DPAT隊が到着する前にDMAT隊がすでに現地入りしていたこともあり、地域保健課として連携に遅れが生じていたのは心配。災害が起きれば、その程度にかかわらず状況確認は行った方が良いと思われるため、ご指摘させていただいた。

○新里課長

台風については被害が長引き、情報の把握が遅れてしまい反省している。医療政策課は動いていたので、地域保健課山内が登庁し、医療政策課と情報共有しながら対応していたが、初動が遅かったのは確かであるため、被災状況の確認は常にできるような体制を今後は取っていきたいと考えている。ご協力のほうもよろしく申し上げます。

○委員長(宮川所長)

琉球病院の福治院長が石川県の現場に入っているので、現場の状況やDPATの活動

状況を簡単に説明していただきたい。

○福治委員

琉球病院の DPAT 隊は石川県庁の調整本部に入っている。本部長は現地の先生方の 5 名で回している。今のところ活動拠点や指揮所にくるケースは数件だが、強いストレス反応を示す方や、支援者支援が必要な方がいる。そこで DOHAT（災害産業保健支援チーム（Disaster Occupational Health Assistant Team））と連携し、そこからの情報を吸い上げ DPAT で調整、現地の保健師や心のケアセンターに繋いでいる。石川県精神科病院の院長会議にも参加予定であるため、情報共有しながら、全国 DPAT から現地のローカル DPAT へつないでいく。

○平安委員

熊本での震災時の活動では、ローカル DPAT 隊と一定期間重なりながら活動し役割を移譲していたが、石川県のローカル DPAT は現在も一緒に活動しているのか。

○福治委員

現在、ローカル DPAT が 2 隊入って一緒に活動している。2/5 から 2/12 にかけて現地のローカル DPAT へ徐々に引き継いでいき、その後は現地のローカル DPAT が活動していく。

○奥浜委員

現地での活動はローカル DPAT へつないでいくと思うが、本部機能は行政の方々に引き継いでいけるのか気になる。本部機能のスリム化も難しいと思うが・・・。

○福治委員

本部機能のスリム化は要になるところで、琉球病院隊がデータ等を整理しているところ。様々な機関が入り情報が混雑しているため、現地に引き継げるようスリム化していきたい。そこがうまくいけば、引き継げるのではないかと思う。

○上田委員

現地の活動についてうかがいたい。ケースは多くないが、ストレス反応が強い方や支援者支援が必要な方がいらっしゃると話されていたが、現地では、どのような支援を行っているのか。

○福治委員

基本的には保健師からケースが上がってきたときに DPAT が動いている。支援者支

援に関しては、行政機関に J-SPEED について周知し、健康チェックのような形で入力してもらい、ハイリスクの方を DOHAT や災害産業保健センターにて継続的に支援している。最終的には現地に繋ぐが、その間を DPAT が取り持ったり、現地が動けない場合は DPAT が繋いでいる。現在は現地につなぐフェーズに入っていると思われる。

○長友委員

熊本にて DPAT 活動をした経験あるが、現地に繋ぐのが一番大変だった。煩雑した情報の整理やマニュアル化をしており、それを活かしてもらっていた。

○福治委員

現在、マニュアルの作成をしているところ。指揮所のマニュアル作成もできてきている。

○委員長(宮川所長)

ご報告ありがとうございました。お体に気を付けて帰ってきてください。

○事務局(赤嶺班長)

協議事項は全て終了しました。今年度は、遅い時期の開催となってしまいましたが、次年度はマニュアル検討委員会等もあるため、早い時期に開催したいと思います。本日はお忙しいところ御参加くださりありがとうございました。